

新築工事

建

書

<http://gemba-know-how.com>

司

施工者

建設

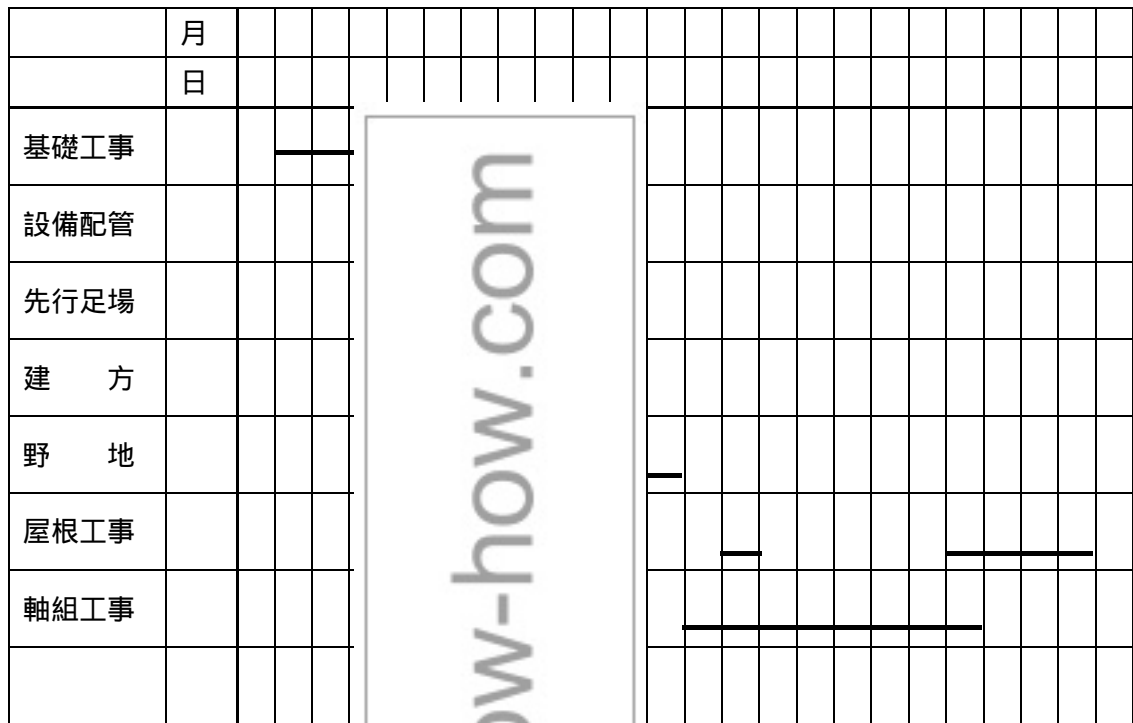
現場代理人

## 目 次

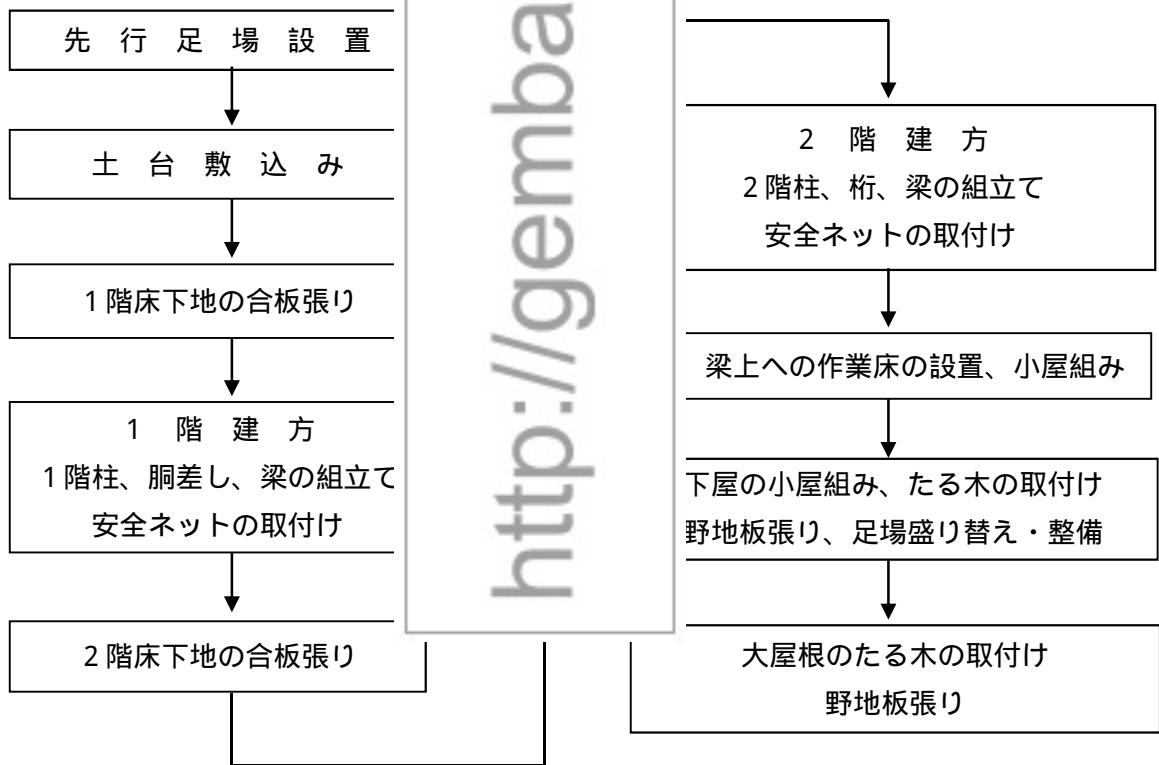
- 1) 建方工程
- 2) 建方のフロー
- 3) 建方作業の段取り
- 4) 建方作業の安全
- 5) 軸組等の補強（筋
- 6) 野地作業の段取り
- 7) 野地作業の安全

<http://gemba-know-how.com>

1) 建方工程



2) 建方のフロー



### 3) 建方作業の段取り

建方作業の段取りにあたっては、次の事項に配慮する。

- (1) 必要な人員を確保する。
- (2) 作業者の年齢・性格・健康状態を把握するとともに、建方作業の理解度・経験を配慮した組み合わせを行う。
- (3) 木建作業主任者（木造建  
める。高齢者、未熟練者（
- (4) 移動式クレーンの運転、
- (5) 移動式クレーンの合図を
- (6) 作業者数に応じた保護帽
- (7) 建方順序は、安全ネット  
きるようにする。
- (8) 作業手順と重機類の配置
- (9) 車両の駐車位置、騒音な



主任者)の配置と、作業者の役割分担を決  
定して作業分担を決める。  
各の所持状態を確認する。

確認する。  
段取りを検討し、常に墜落災害が防止で  
きる。  
ることがないようにする。



### 4) 建方作業の安全

#### a. 建方作業前

- (1) 構造部材は、建方作業に  
接合金物類は、専用の袋に
- (2) 木建作業主任者は、大工  
者全員を集め、仕事の割
- (3) 先行足場の組立て状態を  
全帯等の使用を指示する。
- (4) 土台の据付け・1階床または仮床の状態を確認する。(土台組み・1階床または仮床敷き  
までの作業工程は、建方作業前までに終わらせておく。)
- (5) 移動式クレーンの据付け状態、玉掛け用具を確認する。また、架空電線が周囲にあると  
きは、クレーン作業に支障がないか、防護管が取付けられているかなどを確認する。
- (6) 建方作業にあたって、周辺を整理しておく。地盤の整地や周辺が整理されていないと、  
部材を持運び、移動中に転倒する危険がある。また、作業がし難くなる。

順序にしたがって積んでおく。

クレーン運転者・玉掛け作業者等の作業関係  
者)手順、合図などを打合わせる。

作業場の作業床との間隔が広い箇所では、安

- (7) 使用工具、服装、保護帽・安全帯の着用状態を確認する。
- (8) 気象情報を事前に調べ、強風・大雨・降雪などが予想される時は、原則として建方作業を中止する。

b . 建方作業中

- (1) 先行足場の作業床を活用し、木建作業主任者の作業指針に従って作業を進める。
- (2) 移動式クレーンを用いる場合は、相手方と十分に声をかけ、安全を確認して作業を行う。
- (3) 躯体内部の建方作業は、作業床を敷き、安全ネットを設置して行う。
- (4) 根太、床などの取付け作業は、作業床または仮床（合板）の上で行う。
- (5) 建方後にしばらく残る開口部には、安全ネットを張るか、仮床（合板）を敷く。
- (6) 建築物と足場の作業床とを兼ねる場合は、安全ネットを設置できない場合は、作業床または仮床（合板）を敷く。
- (7) 建方作業工程で、安全ネットを敷く作業をできるだけ少なくする。
- (8) 上下作業をしない。
- (9) 材料や部材、取付け金物などを落下させない。
- (10) 余分な部材を上げない。工具を置かない。



- 頂どおりに行う。
- 作業を進める。
- どの重い部材を2人掛りで組立てる作業は、安全を確認し合いながら作業をする。
- 作業床からこの作業床上に脚立（足場）を設置して作業を行う。
- ・押入部・下屋の小屋裏）には、安全ネットを設置する。安全ネットが張れない場合は、安全ネットを設置する。安全ネットを使用する。
- 構造部材の地組が行える場合は、高所作業をしない。
- 材料を置いたり、こう配のある所に部材、



http://gemba-know-how.com

5 ) 軸組等の補強（筋かい・火打線）

a . 仮筋かい

柱を建込み、桁、梁等の横架材をカマドに仮は、正の筋を直し、できるだけ早く、仮筋かいを取付ける必要がある。取付けにあたっては、次のことに注意する。

- (1) 上階の建方作業における仮筋かい取付け作業は、床梁下に安全ネットを設置する。
- (2) 仮筋かいの取付け方法は、作業床または仮床上に脚立（足場）を設置して行う。
  - ・桁や梁上に乗って仮筋かい（上部）を固定するようなことはしない。
- (3) 仮筋かいの上端は、横架材の上端より突出さないようにする。

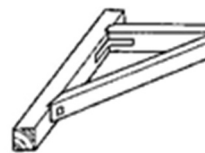
(4) 仮筋かいは、45度の角度で「梁間方向と桁方向の筋かい」、また、「方向が反対になる返し筋かい」を取付けることを基本とする。

(5) 仮筋かいの割れ・本数不足があるので、所定の本数

(6) 建方作業は、常時行われ、仮筋かいの取付けが急

#### b. 火打梁・梁・桁

火打梁と桁・梁側面の取合い部に構造金物を入れ補強または平釘打ちで固定する。



火打梁

(1) 火打梁の取付けのための地上で行うようにする。

ボルト類の穴の基本は、

(2) 火打梁の取付け作業は、保して行う。不安定な姿勢をくずす危険がある。

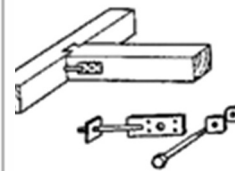
(3) 火打梁の取付けは、床または仮床上に脚立(足場)を設置して行う。外部足場の作業床を使って行う場合は、足場作業床から身を乗り出す作業となるので、安全帯を使用して行う。

(4) 火打梁は、木材の乾燥によってボルトにゆるみが生じることがあるので、天井を張る前に点検し、ゆるみがあれば増し締めをする。この点検は、他の構造金物のボルト締め部についても同様であり、この箇所を塞ぐ前には、必ず点検する。

不十分な場合は、倒壊の危険を招くこと

で高揚した雰囲気の中、作業が進められ、  
確実な固定とともに、墜落に注意する。

ルト締めとする。また、梁と桁のコーナ  
横架材に突付けで取付け、ボルト締めま  
のことに注意する。



羽子板ボルト

で行う。ボルト類の取付け用の穴あけも  
する。

用いての作業なので、安定した姿勢を確  
量や、回転に伴う反動で、身のバランス

c . 本筋かい

- ・軸組み全体が完了後に歪みを直し、本筋かいを入れる箇所の仮筋かいをはずしながら1箇所ずつ本筋かいを入れる。
- ・本筋かいは、構造上、引張力、圧縮力に耐える大切な部材なので、所定の場所に必ず入れる。本筋かいを入れる柱と物を入れ補強する必要がある。
- ・本筋かいは、大入れ箇所

6) 野地作業の段取り

野地作業の段取りにあたっては

- (1) 必要な人員を確保する。
- (2) 作業者の年齢・性格・健康状態等を考慮する。
- (3) 木建作業主任者の配置と
- (4) 移動式クレーンの運転業
- (5) 移動式クレーンの合図を
- (6) 部材の荷上げ時期、仮置  
な量とする。大量の仮置き  
への影響など危険な要因と
- (7) 作業順序は、墜落・転落

7) 野地作業の安全

a . 野地作業前

- (1) 昇降設備、屋根足場の状
- (2) 外部足場に、屋根手すり  
広いときは、屋根からの墜
- (3) 電線が近接している場合
- (4) 保護帽、安全帯を着用す
- (5) 下屋がある場合は、下屋  
付けるなどして、屋根か
- (6) 木建作業主任者は、野地  
合わせる。
- (7) 気象情報を事前に調べ、  
降霜、降雪後は滑りやす

。

所作業なので、作業への習熟度、健康状

決める。

資格の所持状態を確認する。

きする部材は、作業の進行に応じた適切  
ばかりでなく、飛来落下、構造材の耐力

を確認する。軒先と足場建地との間隔が  
を取付ける。

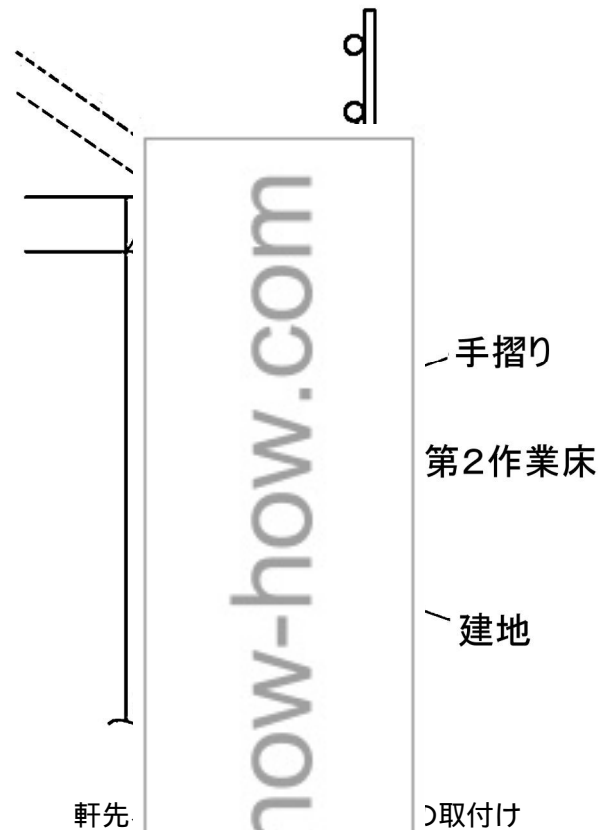
れているかを確認する。

もので、滑りにくいものを履く。

下屋上に足場を組立て軒先手すりを取  
る。

集め、仕事の分担、作業手順について打

されるときは、作業を行わない。降雨、  
作業を行わないようにする。



b. 野地作業中

- (1) 野地作業は、木建作業主
- (2) 墜落・転落防止措置がと
- (3) 野地部材の荷上げ、荷下に注意する。
- (4) 軒先のたる木端部の切り上部で切り揃えを行うときは確認してから作業をする。
- (5) 野地板張りは、軒先から
- (6) 野地板、たる木を持つと
- (7) 天窓の開口部は、合板で
- (8) 屋根への昇降は、昇降設
- (9) 電動工具等の使用では、コードや電工ドラム類が足、部材に絡まないようにする。また、電工ドラムや部材が落下しないようにする。
- (10) 木屑や切粉は、すべりやすいので、放置したままで作業を続け

作業をしない。  
 順の落下と、部材取込み時の墜落・転落  
 上で行うようにする。  
 る。下方には、人が立入っていないこと  
 行く。  
 あるので注意する。  
 現場上や小屋組上に置かれることになる。





c . 部材仮置き作業時の注意事項

小屋組の上にとる木、野地材  
上げで行うことになる。部材

- (1) 荷上げに移動式クレーン  
合図によりつり上げる。和
- (2) 手渡しは、声を掛け合
- (3) 仮置き部材は、一箇所に
- (4) 仮置きするたる木、野地材
- (5) こう配のある面には、仮  
する。
- (6) 野地作業で当日に残った  
場合は、ロープ掛けする

d . 足場・はしご・脚立(足場)の

野地作業で、屋根こう配の昇  
降設備を使用する。

野地作業中、また、昇降中

- (1) 屋根面のこう配が急こう
- (2) 屋根面の作業は移動がは  
いよう、外部足場に屋根手  
軒先用安全ネットを張る。
- (3) 下階の床よりはしごをか  
部を 60 cm 以上突出す。
- (4) はしごは昇降設備であり  
ない。
- (5) 脚立(足場)を単独で使用する場合は、開き止め金具をしっかりと固定する。据付けは水平な場所とする。脚立(足場)を立て掛け使用することや、脚立(足場)を伸ばしてはしごのようにして使うようなことはしない。

用の機械を使用するか、手渡しやかつぎ  
は、次のことに注意する。

用する場合は、しっかりと玉掛けをし、  
、トの能力以上の荷をつり上げない。  
持状態を互いに確認してから手を離す。

しておいたり、母屋に架け渡しておく。  
えず仮置きする場合は、滑落防止措置を

降ろす。やむをえずそのまま仮置きする  
措置をする。

を設置する。また、屋根への昇降は、昇

生しているの、次のことに注意する。  
は、屋根足場を設置する。

が移動しても軒先から転落することがな  
軒先と足場建地との間隔が広いときは、  
て作業する。

り止めが付いたはしごを用い、はしご上  
に、上部は固定する。

降しない。前向きで降るようなことはし